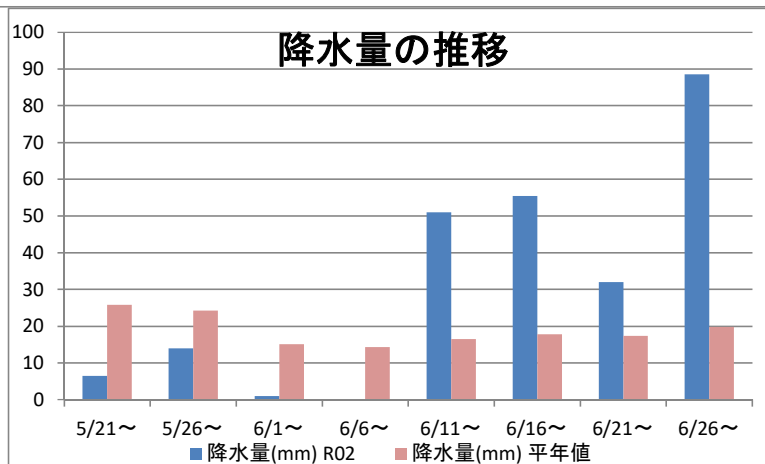
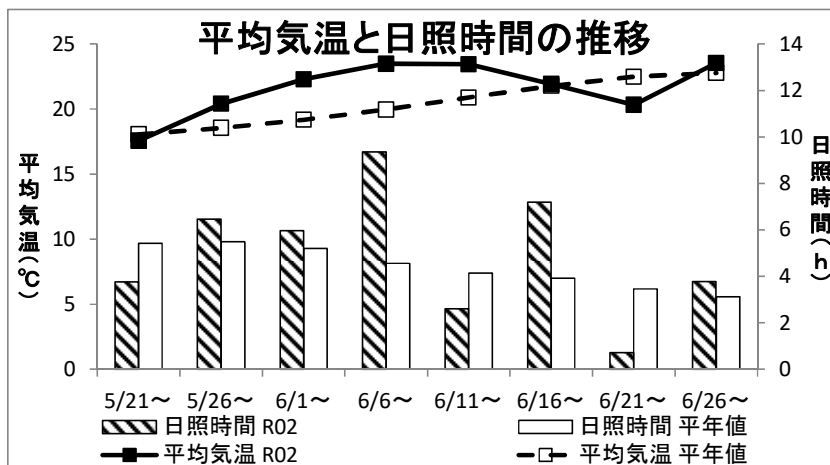


水稻生育情報 (No.4)

令和2年6月30日
 県西農林事務所 経営・普及部門
 (筑西地域農業改良普及センター)
 TEL:0296-24-9206

【生育概況】

- ・6月の気象は、気温は第5半旬を除くと高温で推移し平年より1.3℃高く、日照時間は平年の121%と多く、降水量は6月中旬以降に雨が続き平年の225%と多くなりました。



- ・水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況を下表に示します。6月29日現在の生育は、草丈は長く、茎数は圃場によるばらつきが大きく、葉色は淡い～平年並の状況です。出穂期予測は今後の気温が高温で推移する前提の予測です。

表1 水稻定点調査結果 (6月29日現在: コシヒカリ)

調査地点	田植え日 月/日	植株株数 株/坪	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		幼穂長 mm	出穂期予測 (月/日)
					葉色板	SPAD値		
筑西市	5月7日	57	69.4	516	4.1	37.5	0.1	7月30日
一本松	(5月2日)	(55)	(69.1)	(583)	(4.2)	(35.6)	(0.5)	
下妻市	4月30日	48	77.7	558	3.4	35.5	1.3	7月23日
加養	(5月1日)	(48)	(67.3)	(569)	(4.2)	(36.3)	(0.3)	
桜川市	5月7日	66	70.1	612	4.1	35.6	—	
岩瀬	(5月14日)	(61)	(56.4)	(540)	(4.2)	(36.7)	0	
桜川市	5月5日	50	71.1	545	4.4	39.0	—	
真壁町飯塚	(5月6日)	(51)	(65.0)	(497)	(4.3)	(37.5)	0	

()内は平成27～令和元年の5カ年平均値

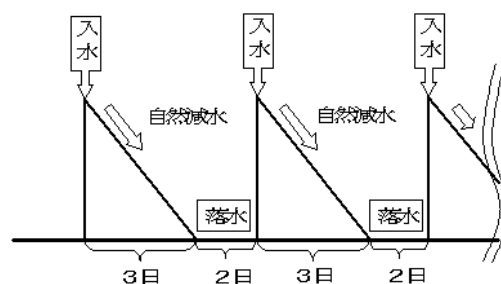
(桜川市岩瀬のみ田植の遅れた平成30年を除く平成26～令和元年の5カ年平均値)

【今後の管理のポイント】

1 中干し後の水管理～間断かん水～

5月上旬移植コシヒカリは7月上旬に幼穂形成期に入りますので、中干しを終えて間断かん水を開始してください。

中干しを行った稲の根は、畑作物の根に似た形質となり、常時湛水で管理すると、根腐れなどが発生してしまいます。間断かん水を行うことで、根腐れ防止や根の活力を維持することができます。右図を参考に間断かん水を行って下さい。入水の目安は、田面を指で触れると湿り気を感じる程度です。



水管理の留意点

水深3cm程度の浅水と「田面の足跡に水が残るくらい(右写真)」の落水を3～4日間隔で繰り返す「間断かん水」を出穂直前まで続け、根に酸素を供給し、根の活力を高めましょう。

出穂時は入水しましょう(花水)。



2 追肥時期について(コシヒカリ)

穂肥を行うかどうかは出穂前20日頃(幼穂長2mm)に草丈と葉色を調べて、判断します。なお、基肥として一発施肥を行っている場合には、追肥は行わないで下さい。

穂肥時期

- ・ **出穂前15日(幼穂長30mm)**
※但し、出穂20日前に草丈80cm、葉色4.0を超える場合は、倒伏の恐れがあるため穂肥を遅らせるか、控えてください。

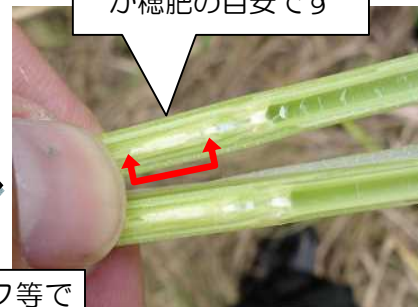
【参考】幼穂の確認方法

※生育が中庸な株の主茎または最長茎を数本抜き取ります



よく切れるナイフ等で茎を二つに割る

幼穂長30mmが穂肥の目安です



出穂前日数	幼穂長(mm)
20	2
18	5~10
15	30
12	80
10	105
6	195

穂肥施用量(窒素施用量)

- ・ **穂肥施用量は、N1~2kg/10a**とします。